

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	自治会町内会向けLINEなどの使い方支援事業委託	
事業の実施者	団体等	一般社団法人こうなん区民利用施設協会
	行政	横浜市
事業の目的	自治会町内会向けにICT活用支援を行うことで、役員の負担軽減やICTを活用している世代の活動参加につながるが見込まれます。また、地域で主体となって活動している自治会町内会を支援センターが支援していくことにより、自治会町内会と支援センターとの連携強化に繋がるとともに、地域の自立性や課題解決をより推進します。	
事業の内容	LINEなどの使い方講座の出前実施	
役割及び責任分担等	以下の分担表のとおり	
実施期間	令和4年7月1日から令和5年3月31日まで	

【分担表】

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
LINEなどの 使い方講座の 出前実施	1 講座企画及びチラシ作成	1 講座企画に関する協力
	2 応募団体のとりまとめ	2 区連会のための講座チラシの印刷
	3 講座の日程調整	3 区連会及び各地区の定例会を通じた講座の周知
	4 講座の講師派遣	4 港南区内の区民利用施設の会議室の利用調整
	5 講座の実施	5 講座の応募状況に応じて自治会町内会へ声掛け
	6 講座実施後の講座に関する相談対応	
	7 講座実施後の報告	

記入日	令和5年3月31日
記入者	[団体等] ・団体等名： 一般社団法人こうなん区民利用施設協会 ・記入責任者 港南区民活動支援センターセンター長 氏名： 泉 有子 連絡先： 045-841-9361
	[行政] ・部署名： 港南区地域振興課 ・記入責任者 地域振興課長 氏名： 松田 博之 連絡先： 045-847-8391

2 事業評価相互検証シート【港南区民活動支援センター作成分】

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・講座については内容を含め、計画段階からもっと協議が必要だったと感じました。
【今後改善が必要と思われること】 ・事業は、自治会町内会の ICT スキルの底上げを目的にしているため、次年度は LINE だけではなく、スマホの基本操作や Zoom などの講座も開催する必要があると思われます。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・講座の周知は、地域振興課が区連会での説明、各自治会町内会へのちらい送付をしてきましたが、講座を知らない自治会町内会も多く、より効果的な PR 方法を考える必要があると思いました。 ・区役所で、同じような内容の講座(スマホ教室、相談会など)が行われていましたが、広報で知ることも多く、ICT 関連の事業については事前に情報を得たいと思いました。 ・地域振興課の職員が各自治会町内会の講座に出席し、講座の内容や講師の進行方法などについて把握してくれていたのが円滑な情報共有ができました。
【今後改善が必要と思われること】 ・講座の周知は、全体に広報するとともに、自治会町内会の会長と繋がりが深い地域振興課より個別の声掛けも行ってほしいと思います。 ・参加者のレベルがまちまちで、LINE の事前インストールができていない方や、スマホの基本操作が不慣れな方が多かったので、次年度はもう少し基本操作を繰り返し行う内容にしたいと思います。 また、講師がひとりの場合は、参加者全員に目が行き届かないケースも考えられるので、サポーターやセンター職員・区役所職員の配置も必要だと考えます。 ・講師によって進め方やマニュアルにばらつきがあったので、もう少しきめ細かく事前の調整が必要だと思いました。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
・自治会町内会の会員の参加なのでもともと交流があり、LINE のお友達登録や交換がスムーズにでき、連絡ツールのひとつとして、すぐに活用してもらえました。 ・QR コードの読み取りに関連して、横浜市のアカウント登録を促すことができました。 ・講座を通して、センターの存在や事業内容を知っていただく良い機会になりました。今後も「地域活動スタートアップ講座」や街のアドバイザー派遣などを通して、自治会町内会とのつながりを深めていきたいと思っています。
自由記入欄
ICT 活用講座の開催により、自治会町内の活動にも興味を持ってもらい、積極的に地域活動を行う人材の育成に繋がっていききたいと思います。

2 事業評価相互検証シート【地域振興課作成分】

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・事業の目標や事業を行う上での考え方の共有がしっかりとできておらず、認識にずれがあった。
【今後改善が必要と思われること】 ・お互いの認識にずれが起きないように、事務連絡会等により情報共有を密にしていけることが必要。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・各自治会町内会の講座に出席することで、参加者側の受講状況や講師の進め方を区民活動支援センターと共有することができた。これにより、講座自体の課題共有がスムーズにできた。 ・講座の周知については区連会を通して自治会町内会に情報発信をしたが、講座枠がちょうど収まる程度の申し込み数だった。次年度に向けてどういったPRが効果的なのか考える必要がある。
【今後改善が必要と思われること】 ・今年度はLINEに特化した講座を実施したが、参加者アンケートにも書かれていたように、LINE以外のツールについても講座を行っていく必要がある。 ・講座の実施にあたり、参加者のレベルに合わせて、スマホの基本操作も選べる仕組みにしていける必要がある。 ・講師によって資料が変わってしまうことはあるものの、ある程度の水準を保つようにしていける必要がある。 ・講座の周知方法として、地区連合の定例会においても声掛けを行う等積極的に情報発信していく必要がある。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
・普段使い慣れている自治会町内会で実施をすることで参加者のハードルを下げることができ、参加者に楽しんで受講してもらうことができた。 ・講座終了後も引き続きLINEの活用をしている自治会町内会が多くあった。 ・区民活動支援センターと協働で行うことで、支援センターと自治会町内会のつながりが深まった。
自由記入欄
・令和4年度のLINE講座では実施後も活用していただくなど、自治会町内会のICT活用を推進することができた。令和5年度もより一層のICT活用推進に向けて、支援センターと情報共有しながら事業実施していきたい。